

ふるさと大使

帰郷インタビュー



講談師

日向ひまわりさん

三原市ふるさと大使の日向ひまわりさん。歴史にちなんだ読み物を観客に向かつて読み上げる講談師として、東京都内の寄席や全国各地での公演会など、数々の舞台で活躍しています。

また、市内の学校や施設をたびたび訪問し、本場の話芸を披露してくれています。帰郷したひまわりさんと思い出の場所を訪ね、故郷三原・大和町への思いを聞きました。

— 大和町の思い出を聞かせてください

山、川、田んぼ、自然豊かな景色を思い出します。夏は、家族で蛻を見に川へ行きました。自宅裏の小川にも蛻

がいて、フワッと家の中へ入ってくることもありました。春の桜、秋に色づくイチョウの木、冬の霜柱。友達と小学校のグラウンドで遊んだ記憶は、四季とともにくっきりと残っています。

季節を感じることのできる匂いって分かりますか？ 夏はムワっとした土の匂いであったり、秋は稻穂や稻を刈った後の田んぼの匂いであったり。冬も鼻の奥がツンとするような匂いがありますよね。東京ではさほど感じませんが、今でも里帰りすると感じます。

— 故郷を思い浮かべて、イメージする場所はどこですか

実家のパン屋ですね。小学生のとき、授業中に友達が「パンの匂いがする」と言いました。たどつていくと私。給食前で嗅覚が敏感になっていたこともあつたのでしきうが、制服に焼きたてのパンの匂いが染みついていたのです。

あと、市岡八幡神社の秋祭り。当日は各地区から提灯行列が神社に集まるのですが、そのようすが光の帶のようでも美しいのです。祭りでは夜遅くまで神樂が舞われるのですが、この日だけは子どもも夜更かしを許されていて、朝から楽しみにしていました。

— 里帰りしたときの印象は

三原の子どもは純粋で元気ですね。真っ直ぐでキラキラ輝いた目、純真な心、大きな声の挨拶、すべてに感動します。

三原の子どもには、私の思う「これが子どもだ！」のすべてが揃っています。子どもだけでなく、多くの人に生の講談をお届けし、笑顔になつてもらいたいです。

— ふるさと大使としてどんな活動をしたいですか

多くの人に三原の自然の素晴らしい景色を伝えたいです。でも、素晴らしい自然は日本中あります。それでも「三原

に行つてみたい」と思つてもうため、

三原の風景が印刷されたはがきをお礼状に使うなど、地道ですが興味を持つていただけるようにしていきます。

— 最後に、市民の人へのメッセージをお願いします

故郷を離れて暮らしていますが、心中には幼いころからいつも見ていた風景と大切な人の顔があり、どんなときも私を支え、励ましてくれます。この場所で育つた子どもたちも、そうであつてほしいです。誇れる故郷があることを幸せに思います。



ふるさと大使として市民に生の講談を届けています

【プロフィール】

昭和50年2月生まれ、大和町出身、東京都在住。平成6年に講談師2代目神田山陽に入門し、神田ひまわりを名乗る。平成10年に二ツ目昇進、平成11年に若手芸能家に贈られる第4回岡本マキ賞を受賞。平成20年に真打に昇進し、神田改め日向ひまわりとなり、現在に至る。

▲ 秋祭りに参加していた市岡八幡神社(大和町萩原)で



▲ 思い出のたくさん詰まった母校、神田小学校を訪ねました